

より効果的な学習指導過程の改善

白翔中学校オリジナル「秋田型授業の学習指導過程」に基づく授業改善を目指して

白老町立白翔中学校 学級数9 (校長 穴田 博樹)

I 取組のねらいと内容

本校は、町が学力向上に向けて推奨している「秋田型授業の学習指導過程」を活用し、日々の授業改善に取り組んでいる。一方で、学習指導過程を固定することで、教科の特質を踏まえた適用問題の位置付けの在り方や、各学習活動の時間配分の難しさなどが指摘され、工夫を求める声が多かった。

そこで、「主体的・対話的で深い学び」、何よりも、生徒にとって分かりやすい授業づくりを推進するため、校内研修における協議、学校教育指導及び町内小学校との連携を通し、多くの教師が活用しやすく、実効性のある「秋田型授業の学習指導過程」を再構築することとした。

II 主な改善点 ※__は、学習指導過程上での改善

① 学校教育指導を踏まえた改善→〈目標の確認〉・〈適用問題〉

【課題】授業公開では、苦手意識がある生徒も意欲的に学び合いに参加する様子が見られた。しかし、反省の中で「学び合いが目標を達成するための『手段』ではなく『目的』になっていたのではないか。」との声があったため、改善する必要がある。

【改善策】単なる話し合いとはせず、学び合いの目的を明確にするため、「本時の目標の明確化」を再確認した。また、本時の目標の達成状況を確認するため、終末に「本時の目標と正対した」適用問題を位置付けることとした。

② 小中連携を通した改善→〈見通し〉

【課題】「主体的・対話的で深い学び」が具体化される自力解決から、学び合いの段階での生徒のつまずきが起らないようにする必要がある。

【改善策】小学校から解決のアイデアをもらったところ、4つの視点をもとに、児童に十分な見通しをもたせてから、自力解決、学び合い、適用問題に取り組ませていた。そこで、見通しの視点を強化することとし、問題提示の時間短縮を目指した。

③ 校内研修を通した改善→〈振り返り〉

【課題】授業の始めから自力解決までは、生徒主体のスムーズな進行であったが、学び合いの場面で、生徒が戸惑う様子が多く見られたことで、まとめや振り返りに十分な時間を充てることができなかった。

【改善策】「学び合いの手順や視点の整理」、「日常の授業で徹底して取り組むこと」の2点を改善することとした。学び合いの視点を、「①まとめる、②比べる、③交流する」に焦点化するとともに、教員から振り返りの事例を収集し、例文集を作成し、効果的なタイムマネジメントを図った。

例文集は、全ての教室に掲示している

目標の確認 本時で身に付けたいことの明確化

定着の時間

○習熟が課題なので、練習問題、小テストなど、練習させたり、復習させたりする時間

導入(順番を入れ替えてよい)

問題提示

課題提示

○本時で学習することを明確にする

見通し

*4つの視点で全員が自力解決に取り始める準備
結果の見通し→①予想・見積もり
方法の見通し→②解決方法・手段 ③キーワード
④今までに習ったこと

展開(学び合いは必要に応じて)

自力解決

○途中まででもよい
○赤ペンでチェックさせる
○学び合いで指名する生徒を決める

学び合い

○学習形態、視点の確認
○学び合いをコーディネート

終末

まとめ

○解決するための方法や考え方を言葉で表現させる(課題と正対)

適用問題

○目標を達成できたかを確認する

振り返り

○自分の言葉で振り返らせる
○授業の価値づけをして、授業で勉強したことの意味を持たせる

(目標と適用問題は一致)

III 今後に向けて

- ① 適用問題については、教科の特質、本時のねらいを踏まえた適切な問題・活動とする。
- ② 単位時間の「指導と評価の一体化」を踏まえ、本時のねらいを踏まえた学習活動とその評価、適用問題との整合性を図る。
- ③ 単位時間の学習指導過程の見直しを図るとともに、単元の指導計画を重視した授業づくりを進める。